

討論メモ

「世界は動いている」

令和8年5月19日

森田晃司

1. 当月は、最初に森田より、中東を始めとして激動し、不安定な世界情勢を分析し、次いで、今後予想される下記の世界史的分岐点の問題点を検討し、さらに、我が国政権の対応への懸念などの説明がありました。
(詳細は HP 専用ページをご参照ください)。

- ① 金融資本の内情と動向
- ② 欧米（白人）の支配は続くのか
- ③ テクノ・ファシズムの行く末
- ④ グローバリズムとナショナリズムの対立
- ⑤ G2（米中）による世界支配は実現するのか

2. 続いて出席者5名による自由討論に移り、下記のような意見が出されました。

- ・今回のイラン爆撃は、イスラエルと米国内の福音派の圧力でトランプは押し切られた。

- ・福音派は作戦を支持しているし、いまだにトランプ支持勢力は、減ってはいる

が、残っている。

- ・ ネタニヤフは家系的に大イスラエル主義だし、イラン撲滅に執念を燃やしている。

- ・ ユダヤ教も、キリスト教も、イスラム教も同じルーツなのに、なぜ反目するのか。

- ・ 日本の仏教は各派で反目しているのか

- ・ この戦争の原因は宗教よりも、金儲けであり、資源獲得ではないか

- ・ 産業革命以後、宗教より物質が重んじられるようになってしまった。

- ・ 戦争の原因は宗教やイデオロギーではなく、金儲け主義だ。

- ・ 戦争撲滅のためには、宗教の価値や人間の生き方が見直される必要がある。

- ・ それには3－4百年はかかるか

- ・ 第一次、第二次世界大戦を含めて、不必要な戦争ばかりやってきた。

- ・ 大手マスコミは金融資本に抑えられ、世論操作に利用されている。

- ・ 中国などはIT技術を駆使して、海外の世論操作をしている。

- ・ 若者はうまくネットを使えるので、期待したい。

- ・ 高市首相の訪米について、

朝、毎、東京新聞は、みっともないおべっか外交、

読、産は、よく練られた外交 との評価。

以上